

リンゴ病(?) 確定 併発 あさいこどもクリニック

パルボウイルスによる感染症で、溶血性貧血・再生不良性貧血の病気をもっている子供さん以外は特に大きな問題をおこすことなく自然に治っていきます

自然経過：発疹の10日（7-14日）前に38.0前後の発熱が1日あって、その後復期の症状として発疹があると考えられています 発疹の時期には発熱咳鼻水などの風邪症状はなくパルボウイルスも検出されません 小学生幼児に多くみられます 一生涯の免疫ができます

典型的な発疹：両側の頬ホホが数日のうちにリンゴのよう赤くなっています
上腕部と大腿部に淡く赤いもやもやとしたレース状の発疹がでたりします
発疹も7日前後（成人は2週間）つづいたのち消えていきます
かゆみは軽度です（蕁麻疹のような強いかゆみはありません）
発疹が腫れて盛り上がることもほぼありません
やや強めの場合は胸おなか背中にも発疹がでますが、腕や脚よりも多い場合はノドのウイルス/溶連菌にともなう発疹や風疹ウイルスetcといった感染症を考えた方がいいでしょう
治療：とくに薬は必要ありません 入浴：可（発疹のある間は長湯を控えておく）

学校、幼稚園の出席停止は… 理論的には典型的な発疹のみられる時期にはパルボウイルスは体内にいなくなっているので出席は可能ですが、頬を真っ赤にしながら出席すると他人に不必要的不安をあたえることになるので、発疹の赤みが強い数日間だけ欠席してもいいでしょう
予防接種は… 発疹がはじめて2週間ほどしてから残っているワクチンあればするといいでしよう

注意すること

- ① 以前から溶血性貧血、再生不良性貧血の病気を持っている子供さんは
リンゴ病が流行している時期は要注意です。発熱筋肉痛とともに、貧血・白血球減少・血小板減少が急激にすすみます ◆ 上記持病のある方は貧血の増悪、発熱の持続、出血傾向（止まりにくい鼻出血、青いあざの多発）が急激にすすむので要注意です
- ② 関節炎症状（関節が腫れたり、痛がったり）は
子供は成人と比べて症状は軽くその頻度も5%くらいです
(成人は50%といわれています) 冷湿布/ヒエピタの貼付で様子みます
- ③ 妊娠初期の妊婦さんでは
小児期にリンゴ病パルボウイルスにかかっていない妊婦さんが妊娠3-5ヶ月時にパルボウイルスにかかると、30%の胎児が胎児水腫となり流早産になります
妊婦さんはリンゴ病の流行っている時期に子供さんに発熱がみられたときはリンゴ病の発疹の前の発熱期のことも考えられるので、発熱のあと2-3日間は唾液接触ができるだけ避けましょう（子供の食べ残しをたべたり、スプーンの共用など）
- ④ 発疹の時期に風邪症状がみられるときは 併発
たまたま何らかの風邪症状をおこす微生物を一緒にもらっていることが考えられます
その風邪症状に対する治療が必要な場合はその薬を内服するといいでしよう

⑤ ごくまれに 腎炎・甲状腺機能低下・自己免疫病 につながっていく方がみられます

倦怠感がつづくようなら 検尿・採血することがあります